

令和4年度三重大学国際交流事業実施報告書（学内版）

1. 申請部局

学部・研究科名等： 人文学部

事業担当者の職・氏名： 教授・綾野 誠紀

内線電話番号： 9129

電子メール： ayano@human.mie-u.ac.jp

2. 事業の名称（20字以内，別に副題を付けても良い）

タイフィールドスタディー

3. 事業内容の別（該当するところにチェックを入れてください。）

教職員，学生の海外派遣（学会やシンポジウム等の出席は除く）

海外交流機関等からの教職員，学生の受け入れ

国際教育プログラムの開発や推進

その他

4. 事業の取組結果

(1) 事業概要

タイの国際 NGO での研修や現地学生との交流を通して、タイの現状と、そこから見てくる日本を含む先進国の姿を知ることにより、各種メディアや文献だけでは知ることができないタイを含む東南アジアへの理解を深めることを目標として、以下の内容の研修を行った。

以下の2点を今回のタイフィールドスタディーの目標とした。

1. 国際協力型と政策提言型 NGO が取り組んでいる課題に基づき、タイ及び東南アジアの周辺国について理解を深めると同時に、日本を含む先進国がどのような立場にあるのかを理解できるようになる。
2. タイの協定校であるタマサート大学の学生との交流を行う。

現地でのフィールドスタディーに先駆けて、計2回の事前研修を行った。事前研修は NGO 法人メコン・ウォッチ理事 土井利幸氏が担当した。また、現地での活動を円滑に行うために打ち合わせを2回行い、詳細な研修用のマニュアルを参加学生が作成した。2回目の打ち合わせには土井氏も参加し、渡航前の最終的な確認を行った。

- a. 事前研修：
- ・ 第1回 2022年12月7日 12:10-13:40
「空間と時間の中のタイ：地政と歴史」
 - ・ 第2回 2023年2月14日 13:00-14:30
「スラムと産業公害に対する NGO の活動」
- b. 打ち合わせ：
- ・ 第1回 2023年2月13日 14:30-15:30
 - ・ 第2回 2023年2月28日 13:00-14:30

フィールドスタディーは以下の内容と日程で実施した。

c. 研修内容及び日程：

- 3月5日（日）中部国際空港発
バンコク到着後オリエンテーション
- 3月6日（月）バンコク市内研修（タイの歴史）
- 3月7日（火）国際 NGO シーカ財団での研修（貧困問題：バンコク市クロ
ントーイ地区）
- 3月8日（水）協定校での研修（タマサート大学ランシットキャンパス）
- 3月9日（木）国際 NGO EARTH での研修（環境問題：ウィン・プロセス・
リサイクル社の事業による被害地域（ラヨーン県ノンパウ村）
- 3月10日（金）国際 NGO EARTH での研修（環境問題：サナム・チャイ・ケツ

ト有機農業組合の取り組み)

3月11日(土) クレット島研修

3月12日(日) タイフィールドスタディーの振り返り

3月13日(月) 中部国際空港着

(2) 事業の背景・これまでの実績

2019年3月に初めてタイフィールドスタディーが実施されたが、担当教員の退職及びコロナ禍により途絶えていた。水際対策も緩和され、新型コロナの感染状況も落ち着いていることから、第2回のタイフィールドスタディーを計画・実施した。

(3) 事業実施結果

合計5名の人文学部学生の参加があった。内訳は文化学科1年生3名、法律経済学科2年生2名である。それぞれ目標を設定し、事前学習をすることにより効果的な研修であった。最終日の振り返りでは、以下のような報告があった。

- ・ スラムや環境汚染といった厳しい状況の中でも、前向きに助け合って生きる人々を見ることにより、現在の日本社会のあり方について考えさせられた。
- ・ 人と人のつながりを大切にしながら、自分達の環境を良くするために行動する大切さを知った。
- ・ 悲観的になりすぎないことの大切さを学んだ。
- ・ 新しい視点を持つことができた。価値観が広まった。
- ・ 英語力の向上も含め、自分の考えを言語化することの大切さを認識した。
- ・ タイ独自の文化や歴史について学ぶことができた。



バンコククロントイ地区 (スラム)



バンコククロントイ地区 (シーカ財団 絵本図書室)



タイ史の講義担当のピヤワン准教授（タマサート大学）



タマサート大学の学生との交流



住民による汚染についての報告（ノンパウ村）



汚染状況の説明（ノンパウ村）



有機農業に関する説明（サナム・チャイ・ケット）



有機農園見学（サナム・チャイ・ケット）

（４）事業の意義

- ・ 4年ぶりに海外での研修を実施することができたことにより、今後の学生対象の国際交流のあり方を検討するにあたって、特に、企画・実施面において大いに参考になった。
- ・ NGOが取り組んでいる課題や現地の関係者とのやりとりを通して、タイやその周辺国について深く理解できたばかりではなく、異なった視点から、日本を含む先進国、また、自分自身を見ることができるようになったと参加者が振り返りをしている。

（５）事業の発展性

- ・ タマサート大学の学生との交流の可能性について、今回のフィールドスタデ

ィーのガイド・通訳の土井利幸氏に依頼し、同大学教養学部のピヤワン准教授を紹介していただき、同学部国際交流担当副学部長に事情を説明した結果、学生向けの講義と学生交流を実施することができた。ピヤワン先生の講義の場所が同大学東アジア研究所であったため、同研究所所長に紹介されたところ、三重大学とは長い交流実績があるとの説明があり、「三重大学タイ教育研究センター」の看板のかかった部屋を見せていただき、コロナ禍により休止している交流を再開したいとの強い要望があった。各種レベルでの交流を再開するきっかけになった。

(6) 中期目標・中期計画における位置づけ

(8)-1-⑥-4 及び(9)-1-⑥-2

5. 事業に係る経費執行結果

事業費		事業費の内訳	
		助成金額	自己負担額
① + ② 941 (千円)		① 500 (千円)	② 441 (千円)
経費区分	金額 (千円)	積算内訳	
1) 旅費	助成分 407 学部等負担分 107	タイ出張費 助成分 教員 157千円×1名=157千円 学生 50千円×5名=250千円 学部等負担分 教員 107千円×1名=107千円	
2) 消耗品	助成分 0 学部等負担分 8	協定校への手土産代、フィールドワーク用文具代 学部等負担分 手土産4千円、文具4千円	
3) 役務	助成分 93 学部等負担分 25	海外旅行保険代、タクシー代、研修費、グローバルWi-Fi 利用料 助成分 タクシー代29千円、研修費64千円 学部等負担分 保険代9千円、研修費3千円、Wi-Fi 13千円	
4) 謝金	助成分 0 学部等負担分 301	説明会・打合せ・事前研修・実地研修・講演謝金、タイにおける通訳・ガイド謝金 学部等負担分 説明会20千円、打合せ10千円、事前研修57千円、実地研修20千円、講演39千円、通訳・ガイド155千円	
合計	助成分 500 学部等負担分 441		

令和4年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：日本語版）

タイフィールドスタディー

[A] フィールドスタディーの目標

1. 国際協力型と政策提言型 NGO が取り組んでいる課題に基づき、タイ及び東南アジアの周辺国について理解を深めると同時に、日本を含む先進国がどのような立場にあるのかを理解できるようになる。
2. タイの協定校であるタマサート大学の学生との交流を行う。

[B] タイフィールドスタディーの参加者

1. 綾野 誠紀（リーダー、人文学部・教授）
2. 土井 利幸（ガイド・通訳、NGO 法人メコンウォッチ理事）
3. 人文学部 学部生 5 名

[C] スケジュール

1. 事前研修（講師 土井 利幸 NGO 法人メコンウォッチ理事）
 - ・ 第 1 回 2022 年 12 月 7 日 12:10-13:40
「空間と時間の中のタイ：地政と歴史」
 - ・ 第 2 回 2023 年 2 月 14 日 13:00-14:30
「スラムと産業公害に対する NGO の活動」
2. フィールドスタディ
 - 3 月 5 日（日）中部国際空港発
バンコク到着後オリエンテーション
 - 3 月 6 日（月）バンコク市内研修（タイの歴史）
 - 3 月 7 日（火）国際 NGO シーカ財団での研修（貧困問題：バンコク市クロート
ーイ地区）
 - 3 月 8 日（水）協定校での研修（タマサート大学ランシットキャンパス）
 - 3 月 9 日（木）国際 NGO EARTH での研修（環境問題：ウィン・プロセス・リサイ
クル社の事業による被害地域（ラヨーン県ノンパウ村）
 - 3 月 10 日（金）国際 NGO EARTH での研修（環境問題：サナム・チャイ・ケット有
機農業組合の取り組み）
 - 3 月 11 日（土）クレット島研修
 - 3 月 12 日（日）タイフィールドスタディーの振り返り
 - 3 月 13 日（月）中部国際空港着

[D] 参加者の感想

- ・ スラムや環境汚染といった厳しい状況の中でも、前向きに助け合って生きる人たちを見ることにより、現在の日本社会のあり方について考えさせられた。
- ・ 人と人のつながりを大切にしながら、自分達の環境を良くするために行動す

る大切さを知った。

- ・悲観的になりすぎないことの大切さを学んだ。
- ・新しい視点を持つことができた。価値観が広まった。
- ・英語力の向上も含め、自分の考えを言語化することの大切さを認識した。
- ・タイ独自の文化や歴史について学ぶことができた。



クロントイ地区（バンコク最大規模スラム）

ノンパワ村住民による汚染についての報告



タマサート大学の学生との昼食



サナム・チャイ・ケットの有機農園見学

令和4年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：英語版）

Thai Field Study

Aims of this field study:

1. To understand Thailand and the surrounding areas in South East Asia from the perspectives of two types of NGOs: operational and advocacy NGOs.
2. To understand where Japan and other developed nations stand through understanding issues related to NGO activities in Thailand and the surrounding areas.
3. To engage in activities with students at Thammasat University, one of our partner universities in Thailand.

Field study leader, guide & interpreter, and participants:

1. Seiki Ayano: Leader (Professor, Faculty of Humanities, Law and Economics)
2. Toshiyuki Doi: Guide and interpreter (Director, Mekong Watch)
3. 5 undergraduate students in the Faculty of Humanities, Law and Economics

Schedule:

1. Pre-field-study workshop (conducted by Toshiyuki Doi)
 - (i) December 7, 2022 (Thailand in space and time: Its geopolitics and history)
 - (ii) February 14, 2023 (NGO activities on issues related to slum and industrial pollution)
2. Field study schedule

March 5: Orientation session (after arrival in Bangkok)

March 6: Introduction to Thai history (Bangkok city tour)

March 7: The largest slum in Bangkok, Khlong Toey (operational NGO: Sikkha Asia Foundation)

March 8: Thammasat University (Rangsit campus) lecture on Thai history, and a half-day trip to Ayutthaya with 11 undergraduate students from Thammasat University.

March 9: Water and soil pollution caused by Win Process recycling company in Nong Phawa Village (advocacy NGO: Ecological Alert and Recovery-Thailand)

March 10: Air pollution issues affecting the Sanam Chai Khet Organic Agriculture Group (advocacy NGO: Ecological Alert and Recovery-Thailand)

March 11: Ethnic and cultural minorities in Thailand (Ko Kret)

March 12: Reviewing the field study

March 13: Flight back to Nagoya

Reviews of the field study by the participating students

- Close-knit communities even in the economically deprived and environmentally challenged areas such as the Khlong Toey slum or Nong Phawa Village have made me realize how weak social connections are in Japan, and how important it is to act together for improving

our environment.

- On the basis of our discussions in the Khlong Toey slum, I learned not to be too pessimistic about our future.
- Through this field study, I was able to obtain a new perspective, and to broaden my horizon.
- I realized the importance of verbalizing thoughts, ideas and opinions, and of improving English
- I gained knowledge about Thai culture and history



Khlong Toey, the largest slum in Bangkok



Farmers in Nong Phawa explaining polluted rubber plantation



Lunch with Thammasat students



Visiting organic farm in Sanam Chai Khet